

(2018年2月23日講演)

13. 「IQ 制度による資源管理を実施しているホッコクアカエビ」

有限会社中川漁業 代表取締役 中川定雄氏

佐渡から来た中川です。よろしくお願いします。

佐渡のエビ籠漁のもともとの始まりは、今から50年あまり前、北海道の古平から2隻来て試験操業をやったのが始まりで、その当時北海道の船は、今は私たちほとんどホッコクアカエビ、新潟で言ういわゆる南蛮エビであるが、ボタンエビを取っていたので量的にも資源的にも少なく、それで最初は調子も良かったので佐渡の船も続々とまねして、その折はまだ自由漁業だったし、だんだんホッコクアカエビを取れるようになって、これは良いものだなということで、その当時はイカ漁が盛んだったし、イカとエビと一緒に、夏はイカ、それ以外はエビというようにして比較的恵まれた漁獲があった。平成15年代ぐらいになったら、沿岸のイカも全く駄目になってしまって、そのころは佐渡のエビ籠の船も30隻ぐらいいたが、最近私たちがIQを始める前には、エビだけではなかなか大変で、10隻ぐらいに減った。それでしばらく本当に大変苦しい時代があった。

それで、県のほうからIQをやったらということで、今まで底引きと競合する関係で7~8月底引きが休みの折はエビ籠も休めということだったので、条件的にも悪いし、底引きの会長に私も話したら、取る量が決めればいつ取ってもよいのではないかと行って、あっさり賛成してくれた。正直7~8月は値段が良い。それで皆にやってみないかと行って声を掛けたが、籠も県から半分ぐらい補助が出たが、籠を変えるとまた金もかかると行ってあまり乗り気ではなかったが、ここはIQをやれば、私たちだけの漁場になって、ほかのエビ籠船はここへは入れない。もっとも、今までも自分たちの沖合ばかりやっていて、私たちの漁場には入れなかった。そのように自分たちだけの漁場になるし、底引きも年間取ってもよい、あなた方の取る量が決まっていればという条件も付けてくれたし、やってみないかと言ったら、渋々賛成してくれた。

それで始めたわけであるが、最初やはり2~3年はさほど目立った効果はなかった。資料P1の最初のグラフを見ると分かるが、今までは9月から始まって8月で終わっていた漁であるが、最後の平成29年から、8月の値段の良いときで終わると、もしトン数がオーバーになると困るのではないかと県でも言ったし、それを変えてくれるのかと言ったら、小松先生もそのあたりでいろいろな話をしてくれて、それなら変えようということで、5月から始まって4月で終わるように周期を変えてもらった。平成29年は、正直自分の割り当てトン数は1月いっぱいでもう取り終わってしまった。あと3月4月は遊ばなければならぬが、余っているトン数を持っている船が、分けてやるし、仲間を取らないかと言ってくれたが、資源保護にもなるし、2月は産卵期でもあるし、2月は休まないかということで去

年から休んでいる。正直ここ 2 年ほどは操業を抑えて抑えてというようにして、今までどおりにやっているとすぐトン数がオーバーになってしまうし、抑えて抑えてというようにやっている。

次のサイズの組成のグラフであるが、平成 28 年・29 年は、青い大は上がっていないように見えるが、実際はこのあたりからもっともっと選別をよくして、昔のままならぐっと右肩上がりに大の量が増えていると思う。

そのような状況で、その下のトン数は、平成 29 年は 34 トン。私の場合 38 トンあるのだが、これは恐らく 12 月いっぱい漁獲だと思う。

資料 P2 に移るが、平成 29 年は単価的には、サイズの選別を良くしたので、良くなってきていると思う。平成 29 年は 7,000 万円で終わっているが、12 月で締めた平成 29 年の金額は大体 9,000 万円ぐらいとどんどん良くなっている。

それと、一番困ったのは、最近餌のサンマが高くなって、資料 P3 を見ると、平成 27 年、平成 28 年ごろからぐっと高くなっている。北海道で 2 年かけて何かいい方法はないかと思って、私もずっと探して歩いてみた。そうしたら、簡単な餌缶で、これビニールで 150 円である。今まではサンマを 1 匹針に掛けて、4 匹かごの中へぶら下げているのが、2 つやっているのは、恐らく全国でも私が初めてではないかと思う。1 つだと、これが抜けてしまうと、ふたが外れてしまうと餌が何もなくなって、何もエビがいなくなる。2 つだと、1 つが抜けてもまだ 1 つ残っているし、それで 2 つ入れても 2 匹あれば餌代が半分以下で済む。これでだいぶ助かった。あとは、正直この分ならばエビ籠だけでも何とかやっていけるのではないかなというような気がしている。あと少しトン数を取らせてもらえればもっと楽になるのだが、そう無理なこととも言えないし、今では一年の 2 月と 9 月の二月も休んでいる。普通漁具を 4 連揚げるところであるが、3 つ揚げて、水揚げ操業の漁獲を減らして減らしてというような格好で、非常に楽になってきた。以上である。